これからの地域医療

少子高齢化が進み、人口構造が変化している現在、地域で必要とされる医療は転換点をむかえています。

地域全体が最適となる医療体制を目指す。そんな考え方から「地域医療構想」は生まれました。

地域医療構想とは？

将来の医療ニーズに対応した医療体制をつくるため、県が医療機関の役割分担や連携の仕組を構築する取組です。

Q なぜ地域医療構想が必要なの？

A 少子高齢化により人口構造が変化！

人口減少が進む中で75歳以上の後期高齢者の割合が増加する見込みです。将来の医療ニーズの変化に対応する医療体制が必要です。

人口構造の変化により、必要な医療が変わる！

後期高齢者の割合の増加により、肺炎や骨折などの割合の増加、若年層の減少などにより急性期医療＊のニーズの減少が見込まれます。

＊急性期医療…病気の発症から、病気の回復が見込める目処をつけるまでの間提供する医療のこと

限られた医療資源（医師等）で最大限の効果が必要！

医療ニーズに合わせ医療資源（医師等）を集約し、病院ごとの役割分担が必要となってきました。

Q 地域医療構想で何が変わるの？

A 役割分担が明確になり医療の質が向上します

専門的医療から在宅医療まで、関係機関の役割分担と切れ目のない医療連携により、医療の質と安定した患者さんの受け入れを持続することができます。

医師の確保につながることが期待されます

「地域で高度な医療を支える柱となる病院」の体制を強化し、専門的な手術や救急で質の高い医療を提供し、若手医師の研修先や勤務先として魅力的な医療環境を構築します。

役割分担と連携により医療機能を維持する体制に

「地域で高度な医療を支える柱となる病院」から周辺の病院へ医師を派遣するなど、各医療圏で限られた医療資源（医師等）を医療ニーズに応じて適切に配置することにより、地域に必要な医療機能を維持する体制を構築します。